

ニシキリギリス



(撮影：桐原真希)

西にて

■え？ニシ？ヒガシ？

「キリギリスはキリギリスだけじゃなかったの？」。数年前に、キリギリスの原稿を書こうとした時、念のためにインターネットで最新情報を調べてみたら、そこには「ニシキリギリス」と「ヒガシキリギリス」という記載がありました。どうやら、南部町で見られるキリギリスは、近畿から九州地方に分布しているニシキリギリスらしく、体の模様や翅の長さを測ってみたら、間違いないようです。てつきりキリギリスはキリギリスだけかと思っていたので、西と東に別れていることにとっても驚きました。

■「アリとキリギリス」

芸人の名前やイソップ寓話で有名な「アリとキリギリス」ですが、実際にキリギリスの姿を見たことがあるという方は、思いの外少ないようです。「ギー、チョン」という個性的な雄の鳴き声を手がかりに、草やぶを探してみると、見事に周辺の緑に擬態した大きな虫の姿が見つかるかもしれません。7月上旬頃に第一声が聞こえ始め、晩秋までラブコールを続けます。寓話の中では、働くア

リをよそに歌い続ける姿が享樂的として描かれています。彼らも限られた時間の中で、草地の食う食われるの戦いの中、必死に婚活して、命を繋ごうとしています。決して怠け者ではないことを弁護しておきましょう。

■噛まれたら血が出るよ！

以前、キリギリスを撮影しようと片手でカメラを持ち、もう片方の手でキリギリスをつまんで、レンズを向けました。すると、暴れたキリギリスは、頭を動かして私の親指をばくつ噛み付きました。大したことはないだろうと、そのまま持ち続けていたら、ガジガジと顎を動かして、かなりの痛さが伝わってきました。「うぎゃー、もうだめ！」と慌ててキリギリスを放したら、私の親指には血がにじんでいました。傷口はぐちゃぐちゃで、強烈な顎の力を目の当たりにしました。肉が好きな雑食性の虫で、非常に強い顎を持っているので、観察する時は十分に気をつけましょう。(写真のキリギリスはメスです。長い産卵管が特徴。)

自然観察指導員 桐原真希